

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスであるということを考慮した理念があり、理解と共有ができるよう研修の際やミーティング等で管理者が具現化した実践できるよう工夫している。	「基本的人権を尊重した、安心と尊厳のある生活」が理念として掲げられている。理念に基づき毎年スローガンが作られている。新人教育の時には必ず研修し、毎朝のミーティングの時も再確認し全員で唱和している。理念に反した行動が見られた時はホーム長より個別に注意したり職員間で話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの夏祭りやいろいろな行事に参加していただけるようお願いしている。地元の小学生との交流会やボランティアの方の参加も定着してきている。近隣にあるお店を利用させていただくことでつながりを深めている。	23年度の夏祭りの反省などを基に24年の夏祭りを行っている。利用者の全家族の参加があり家族同士、職員とも触れ合うことが出来た。近隣の家庭に案内を配ったり、小学生の来訪時に声をかけ、顔馴染みの小学生の親子などの参加があり、賑やかに行われた。区費の支払いもしている。小学生が授業の一環で「お寄りとのふれあい」をテーマに毎月先生と一緒に来訪し、話をしたり自慢のカエルやカブトムシを持ってきたり、時にはガラス拭きをしてくれたりと交流が続いている。	回覧板をホームにも回して頂くことを区長さんと相談されたら良いのでないだろうか。地域の情報を知り、また理解していくこと、隣の家から回覧板を回して頂き次の家へ回す単純な作業だが地域密着型施設として今後役に立っていくのではないだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民協の会議に参加させていただいたり、地域の方にお話が出来る機会を頂き、ホームでの暮らしを通し認知症介護についてお話させていただいる。ご家族の話や、ご家族の近所の方の話を聞くなど話を聞く機会を大事にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方や家族代表・地域代表の方に運営推進委員になっていただき入居者状況やホーム内での様子をお伝えしGHIについて理解していただくと共にご意見を頂き実際のサービスに反映させている。	家族、区長、民生委員(複数)、地域代表、市職員、、包括支援センター職員等の出席を得て2ヶ月に1回開催している。「意見交換」として委員から上がった発言に対し、次回にホームより改善策を含め書面にしたものが委員に配布されている。当日、次回開催予定日を連絡しているが、再度、改めて書面で開催日、議題などを連絡している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の担当者の方や地域包括支援センターの方から相談を受けたり、相談にのっていただいたりしています。必要に応じ出かけていくこともあります。	お願いしていた「介護あんしん相談員」が24年12月より派遣されており、月一回の訪問を利用者も職員も心待ちにしている。運営推進委員会の開催案内を持参しながら市担当部署と情報交換も行っている。家族より依頼され、介護保険の更新時の代行申請や認定調査時に情報を提供している。市よりの紹介で施設入所などの個人的な相談も受け入れている。短大からの実習生の受け入れが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はできる限りしない方向で対応しています。玄関はセンサーをつけることで人が玄関に来るとわかるようになっており、鍵はかけずに対応できるように取り組んでいます。	玄関は屋間施錠していない。家族より「鍵をかけてほしい」と依頼されるが、ホームの理念や拘束による弊害、対策等を説明し、理解して頂いている。ベッドの柵も利用者の行動を束縛することなく身体の一部として利用できる位置に設置している。「身体拘束廃止委員会」があり、話し合いの機会が多い。拘束に当たる行為の時は家族よりの「同意書」を頂き、記録を残すようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心身共に健康で虐待をしたいと思わない環境整備に心がけ研修を積み重ねていく中で自己啓発をし防止に努めています。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用しようと思った利用者様もいます。管理者・職員共に概要は理解しており、家族・関係者とも必要に応じて情報交換しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時共に契約書・重要事項を読み合わせをしながら説明し、不安なことや疑問がないか伺いながら承諾を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や来所時、意見、不満、苦情を聞く意見箱設置するなどして聞く機会を設けており、また、外部機関にも窓口があることを玄関に掲示させていただいている。	毎月ホームからの連絡と居室担当者による利用者の近況報告が書かれた「ホーム便り」が家族へ送られている。また、3ヶ月毎に行事のスナップ写真や歳時記などが掲載された「ホーム通信」も家族や遠くに住んでいる子供たちへと送付されている。家族会が発足した。面会時には挨拶と利用者の近況の報告を行い、帰りに要望等を聞くように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より職員の意見を聞くように声掛けを行っている。また、カンファレンスや研修の際にも何でも話せる雰囲気作りを心がけている。	毎朝全員でミーティングを行い、昼食後ユニット毎に台所でケアしながらミーティングを行っている。定例会が月2回あり施設全体の話し合いであったり、ユニット毎の話し合いにしたりと随時変更し話し合いの機会を多く持っている。管理者と統括責任者により年2回、職員の「自己評価」に基づき個人面談が行われ、職員の意思も聴き取られ、人事考課にも適用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、事業所内で日頃の取り組みに対する自己評価を実施している。運営者は、それに目を通すと共に日頃の努力や実績を把握し、実績を評価、その上で、職員は向上心を持ち、仕事をすることができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や同法人内での交換研修が受けられるように検討中。外部での研修にも積極的に参加できるようスキルアップのための取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われるスタッフ研修や他施設との交流を図ることでネットワーク作りやサービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報はご家族やケアマネから情報を頂いたり、アセスメントに目を通し本人の話を傾聴させていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接は、本人、家族はもとより、なるべく多くの関係者から情報を聞いた上でサービスの提供を決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のG.Hや施設の特徴を伝え、その利用者様に適していると思われるサービスや内容の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員を心配してくださる利用者様。何気なくかけていただいた言葉や笑顔に励まされることが沢山あります。少し休みなさいよ。一緒にお茶を飲もうと声をかけてくださる利用者様は共に暮らす家族です。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思い、家族を思う利用者様のおもいをおききしながら、今ホームで出来ることをお伝えし一緒に考えさせていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃からずっとひいきにしている床屋さんに出張でいただき髪を切っていただく。髪を切る間積もる話に花が咲き、明るい笑顔が見られる利用者様がいらっしゃいます。大切にしてきたものほとても大事だと思います。	友人や以前の職場の後輩が「お世話になった」と言い訪問されている。利用者の希望で、部屋や長椅子で中庭を見ながらお茶を飲む等楽しい時間作りを支援している。お正月には食事をして帰ってくる利用者や家族と先祖や連れ合いの墓参りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係を把握した上で話題を提供したり、テーブルでの席や入浴等の順番を工夫し、トラブルを未然に回避できるようにしている。利用者同士の助け合いや、気配りも危険のない範囲であれば見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても電話にてご様子を伺う。必要に応じて今までと同様ご家族様のご相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のご意向に従い、サービスが提供できるよう心掛けている。時には家族も交え話し合う機会を設けている。	全員の方が言葉や仕草や表情で意志を伝える事が出来ている。開設当初職員の異動が多かったが現在は異動が少なく職員は利用者の反応が理解できる関係となっている。トイレに行きたくなるとお腹をポンポンとたたいたり無表情であるがしっかりと話す事を理解していたり利用者の特徴を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境、以前からの習慣や嗜好趣味の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種チェック表を利用し、心身の健康状態を把握し役割や一日の過ごし方の把握に努めている。把握した情報は職員全体に共有できるよう記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの情報収集を行い評価を行う際に反映させている。職員間でもミニカンファレンスを行い意見を出し合っている。	入居時に利用者、家族の意向を聞きプランを作成している。短期目標について毎日チェックを行い記録している。特記事項は毎月内容を変え記入されている。カンファレンスを行い定期的に見直しが行われている。利用者の状態変化の時や家族よりの要望があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録申し送り等は日勤帯が黒、夜間帯が赤としわかりやすく、必要な情報が共有できるよう工夫し実践や計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コミュニケーションを大事にしながら、本人が何をしたいのか、どんな思いがあるのかを捕らえていく。家族が面会に来てくださった際、利用者様の様子を伝えながらご家族様からのお話も聞かせていただきサービスに生かしていく		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の小学生との交流や民生委員の訪問等により、いろんな方と触れあったり話を聞く機会を設けている。地元で行われているどんど焼きやお祭りにも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院の支援を行っている。通院が難しい利用者様は往診に来ていただき、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者のかかりつけ医による往診が月2回行われている。他の利用者のかかりつけ医への受診は原則家族にお願いしている。歯科治療はレントゲン、抜歯も含め協力医によりホームで治療が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師である為、必要に応じた受診や処置看護を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、また、入居者を交え見舞いに行った際や、付き添い家族等から医師や看護師との情報交換、また、受け入れ可能(医療的な処置が可能な状態)であれば早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については家族、主治医の先生と何度も話し合いの場を持ち、家族の合意のもと往診に切り替え職員全員で情報を共有している。	昨年一名の方がホームで医師、家族、職員の協力態勢で看取りが行われた。ホーム長が看護師資格者で医師よりの指示を職員に適切に伝えられる事が出来た。今後も状況により、家族、医師、職員の話合い取り組みを決めて行く。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法は記録に残し実践の場面で迷わないようにしている。急変や事故発生についても手順を周知するよう研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホームでの火災が連日、テレビの放送で取り上げられている。避難訓練はもとより火元が危なくないように常に点検を行っている。	年2回避難訓練が行われている。消防署へ計画書を提出し指示を仰ぎ利用者と職員が参加し行っている。スプリンクラー、非常誘導灯、消火器、自動火災報知機等が設置されている。施設火災の報道を見てコンセント、電気毛布、電気カイロの点検を含め再度注意確認した。3月に自然災害の訓練を行う予定があったが急遽火災による訓練に切り替えた。消防署の参加のもと行われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、職員それぞれが普段からプライバシーを損ねるような声掛けや対応をしないよう心掛けているが、ミーティングの際等、職員同士、お互いのかかわりについて良い点・改善点について話し合い、マンネリ化や馴れ合いを防ぐようにすることを心掛けている。	女性は名前にさん付けが多く男性は苗字にさん付けで呼ぶ事が多いが、利用者の希望によりきめている。ご夫婦で利用されている方々は名前で呼んでいる。男性の利用者は畑仕事は「男しょの仕事」台所仕事は「女しょの仕事」と考えている方が多く利用者の意思を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれの理解力に応じ判りやすい言葉を選び、時には写真や広告等を見ていただいたりして理解しやすく、伝えやすくできるように働きかけている。言葉だけに頼らず表情や行動からも思いや希望を察知できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	G・Hでの生活パターンはあるが、無理強いすることなく、本人の希望や体調により配慮した生活を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服が好きな利用者様とは洋服を一緒に決めたり、美容院と一緒にいくなど、おしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまでは役割のひとつとして、それぞれに合わせた支援を一緒に行っている。食事や飲み物の好みについても把握しおいしく食べていただけるよう心掛けている。	夏になると中庭で収穫した野菜が食卓に出たり毎年野沢菜を利用者と一緒に漬け食卓に登場している。春先になると野沢菜をお焼きにして食べる等利用者と職員と一緒に作り味わっている。頂いた柿を利用者と一緒に作業し干し柿にして食べた。誕生会は当人の希望するケーキなり料理を出すようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量については、ケース記録に残し状態を把握、水分を多めに摂っていただくための工夫や声掛けを行っている。しつこくなりすぎないように注意しながらもバランスよく水分や栄養が摂れる様配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂き十分に磨くことの出来ない方は介助させていただいている。義歯については磨くほか週一度洗浄剤にて浸け置き洗いをしている。可能な方には、磨き方の指導を歯科衛生士さんをお願いし定期的に見て頂いたり職員からも声掛けさせていただいている。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が排泄パターンを把握し、それに応じてトイレ誘導や介助を行っている。パッドのあて方や使用方法について講習を受けできるだけ不快の無いよう配慮し、また、失禁にならないよう支援している。	自立の方とリハビリパンツ使用の方と様々であるが利用者の自尊心を傷つけないような声掛けをしている。トイレの戸は三枚の引き戸になっている。利用者の排泄時に職員はトイレから廊下に出て待つが不安要素のある場合には三枚引き戸を上手く利用することで本人に気付かれず見守りしている。夜間もパッド交換等職員が声掛けし行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて、個人の排泄パターンを把握し、水分補給や食事内容にも配慮しています。食事の後トイレにしわっていただく、そんな当たり前のことが一番の便秘予防です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清潔が保てれば回数にこだわらず、ゆっくり入浴して頂ける様日程や順番、入浴時間や介助方法を決めている。声掛け誘導はさせていたが無理強いはいしない。	一週間に2回の入浴を計画しているが、利用者の状況で対応している。浴室は車イスや入浴介助の椅子が置けるゆっくりとしたスペースで、介助がしやすい浴槽になっている。入るまでは拒否されたり、時には家族の説得やら職員を悩ませるが入ってしまうと心地良く中々あがらない利用者が多く一人30分位と時間をかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方で夜間安心して気持ちよく眠れるか。左右されやすい心身の状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬局から頂いている薬の説明書をファイルしてある。服薬の変更や主治医からの指示は記録に残すと共に申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事、苦手な事の情報を中心に居心地のいい環境作りを支援している。役割を持っていただく事で達成感や満足感が得られるよう声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院や理髪店など気分転換と運動も兼ねて、車椅子や徒歩にて出かけて頂いている。天気のいい日はホーム内外の散歩に出かけ、中庭に植えた野菜の収穫や花がら摘み、草取りも自由に行っている。	民生委員の方に教えて頂き「大仏殿」への散歩コースが出来ている。往復で一時間ぐらいかけて休みながら散策し利用者の方々が地域の方々とふれあう事が出来るように出かけている。初詣や四季折々の外出は計画され行われている。	

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持していた方で、管理能力のある方については御家族と相談の上所持していただいている。お金を持っていることで落ち着かなくなってしまう方もいらっしゃるので個々に対応させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳が遠い方が多く電話での会話が難しいが、職員が間に入り支援させていただいている。届いた手紙はご本人に渡したり、代読させていただき、親しい方との交友関係を保てるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレに行きたいタイミングが重なってしまったり、いつも使っているトイレが空いてなかったりという事はあるものの、職員の声掛けと誘導、ご利用者様同士での譲り合いで過ごして頂いています。室内は明るく中庭の花が良く見渡せるようになっており、植えられた花や野菜、植木で季節感を感じて頂いています。	木目調の室内は掃除が行き届き、ホーム真ん中に中庭がある、中庭を眺めながら廊下をぐるっと歩くのもいい運動になる。各部屋の入口に飾られた絵を鑑賞しながら廊下に作られた椅子に腰かけ中庭を眺めるのも楽しい。中庭にはカキの木と梅の木があり利用者や職員で野菜が植えられる風景が見られる。ユニットの食堂の間仕切りを開けると広がりリビングに変身し賑やかな国道の通りと閑静な住宅地と全く違った風景を楽しめる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と和室交流スペース等、好きな場所で好みに過ごして頂けるよう共有スペースが随所にあり、ゆったり過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた家具の持ち込みを勧めており、布団や枕についても新しいものではなく、今まで使っていたものを持ってきて頂くようお願いしています。写真やお仏壇などご本人が大切にされてるもの、自分の部屋だとくつろいで頂ける空間になるよう工夫しています。	部屋には、ベッド、タンスと洗面台が設置されているが布団を敷いている方等利用者の生活に合わせていた。家庭よりテーブルやいす、位牌、冷蔵庫が持ち込まれている。家族が毎日訪問し冷蔵庫に入れたり出したりしながら親と一緒に過ごす時間が窺われた。利用者の大好きな動物のぬいぐるみと広告を壁に飾り付けてあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、玄関、廊下には手擦りが付いており、それぞれの身体能力に合わせて利用して頂いています。廊下の手擦りは時にはハリバシリとしても使っています。ベッドの向きや家具についても、ご本人、御家族とよく話し合った上で設置させて頂き使いやすい環境作りにも配慮しています。		